記者発表

平成２５年７月１９日
国土交通省東北地方整備局
最上川ダム統合管理事務所

低気圧に伴う降雨における寒河江ダム・白川ダムの※防災操作（洪水調節）効果について

～　寒河江ダムは流入量及び調節量が既往最大値を記録しました　～

最上川ダム統合管理事務所管内では、低気圧に伴う降雨により平成２５年７月１８日、寒河江ダム、白川ダム、長井ダムにおいて防災操作（洪水調節）を実施し、下流河川の水位低減に効果を発揮しました。
各ダムの操作状況は次のとおりです。

	最大流入量	最大流入時における調節量
・寒河江ダム	約１，２９０m3/s	約１，０３０m3/s
・白川ダム	約３３０m3/s	約１３０m3/s
・長井ダム	約２１０m3/s	約１２０m3/s

この内寒河江ダムの最大流入量及び最大流入時における調節量は、平成３年の管理移行後の最大値を記録しました。

なお、今後しばらくの間、ダムからの放流がつづきますので、河川やダムの情報に注意してください。

※防災操作（洪水調節）：川の増水を少なくするため、ダムに流れ込む水を貯めて川の水の量を減量している状態です。

【発表記者会：山形県政記者クラブ】

問い合わせ先

国土交通省　東北地方整備局　最上川ダム統合管理事務所
山形県西村山郡西川町大字砂子関１５８
副所長（技術）　高橋　長幸　（内線２０４）
調査課長　髙橋　正志　（内線２７１）
電話　０２３７－７５－２３１１（代表）

最上川水系　寒河江ダムの効果（平成25年7月18日 低気圧に伴う降雨）P1

〇寒河江ダム上流域において、流域平均累加雨量は254.4㎜を観測し、最大流入量は１秒間に約1,290立方メートルと平成３年からの管理移行後**最大の流入量**を記録しました。

〔これまでの最大流入量　毎秒６８１．５立方メートル[平成７年８月１０日洪水]〕

〇今回の洪水期間中における洪水調節量は最大で１秒間に約1,030立方メートルで、これは管理移行後**最大の調節量**となりました。　〔これまでの最大調節量　毎秒６２０立方メートル[平成７年８月１０日洪水]〕

〇また、最大貯留量についても約1,620万立方メートル（東京ドームを容器とすると約１３杯分）となり、管理移行後最大規模の水を貯留し、下流の洪水被害の軽減を図りました。

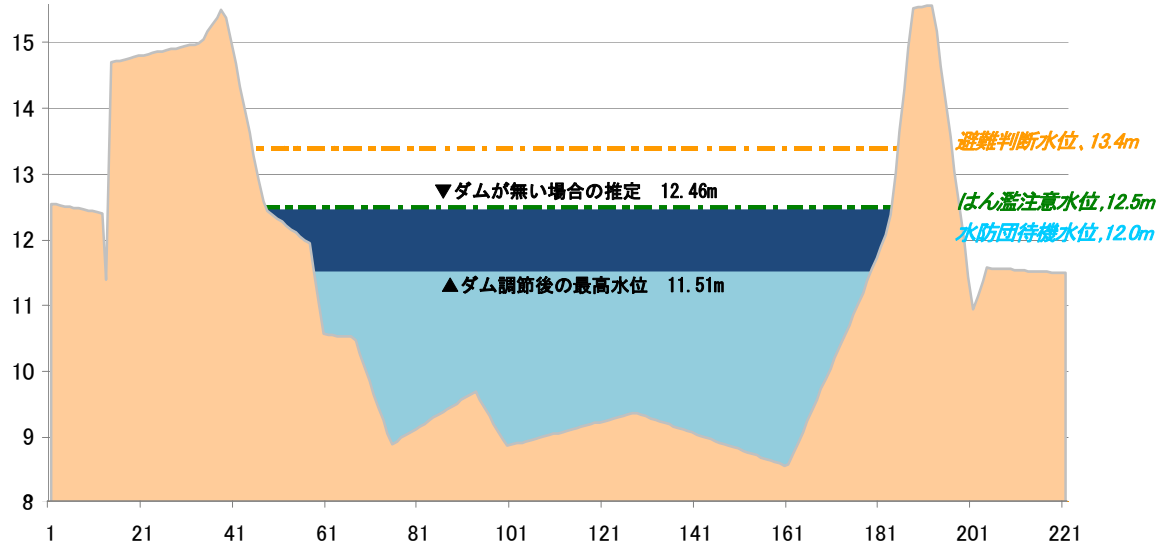
〇ダム下流の西根地点（寒河江川下流基準地点）では、**約1.0mの水位を低減**させる効果があったものと推測されます。

位 置 図



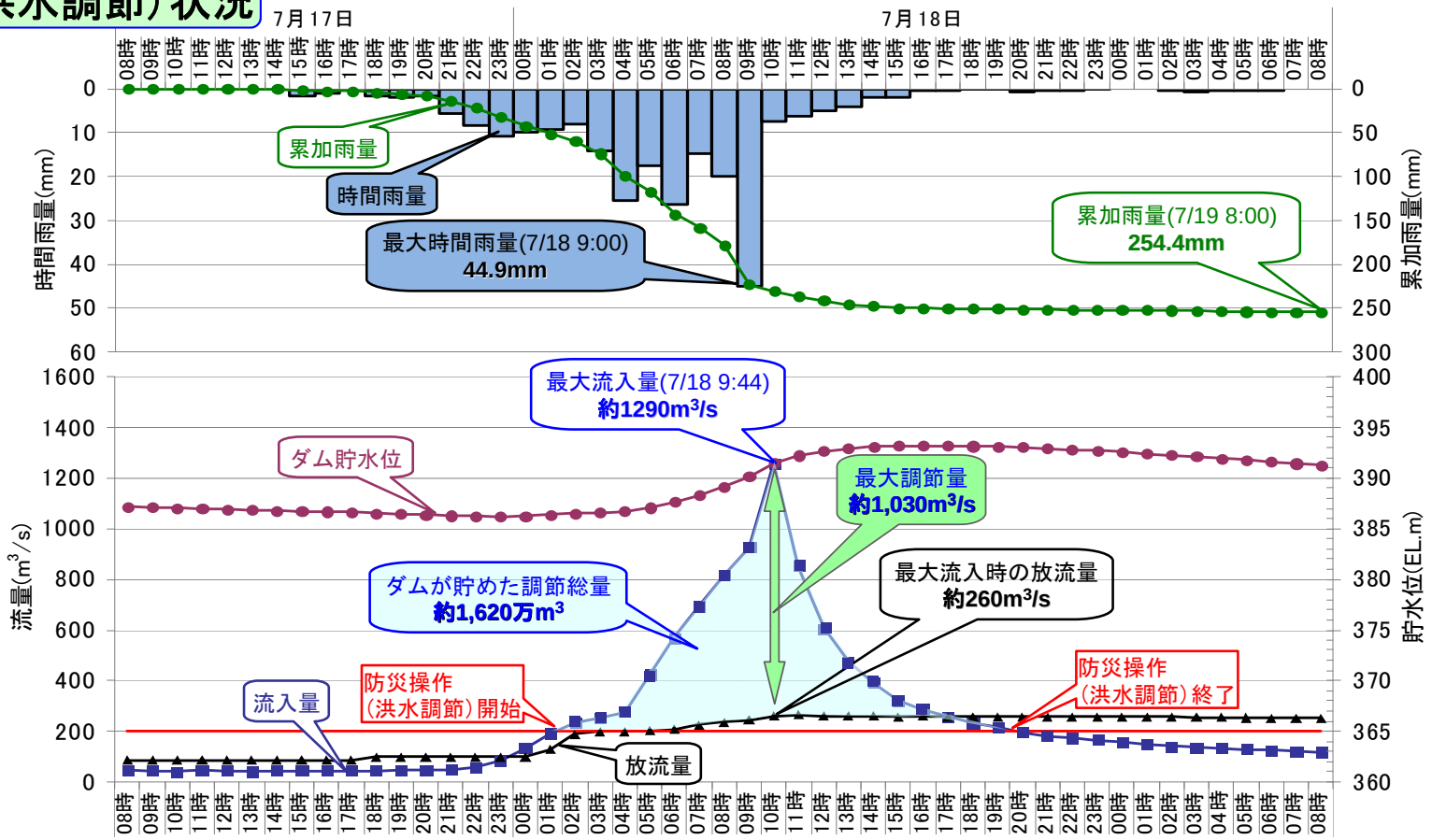
河川水位の低減効果（西根観測所）

ダム整備前：12.46m
ダム整備後：11.51m
→約1.0mの水位低減



最上川水系　寒河江ダムの効果（平成25年7月18日　低気圧に伴う降雨 ）

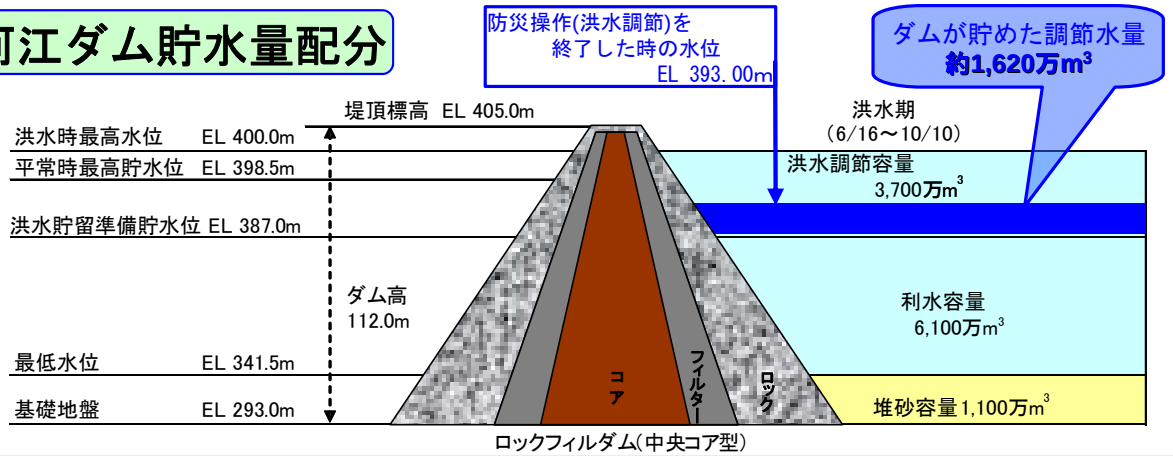
寒河江ダム防災操作（洪水調節）状況



寒河江ダム貯水状況　7/18　9：50



寒河江ダム貯水量配分



最上川水系　白川ダムの効果（平成25年7月18日　低気圧に伴う降雨　）

〇白川ダムにおける、流域平均累加雨量は74.0mm、最大流入量は１秒間に約330立方メートルとなりました。
〇今回の洪水期間中において、最大約71万立方メートル（山形県庁を容器とすると約5.3杯分）の水を貯留し、下流の洪水被害の軽減を図りました。
〇ダム下流の椿地点（置賜白川下流基準地点）では、**約0.4mの水位を低減**させる効果があったものと推測されます。



